

43) 『幼幼新書』 宋版巻 38 と明抄本巻 38 との比較

Comprison Southern song edition 『youyouxinshu』 volume 38 and ming duplicate copy volume 38

日本鍼灸研究会 川端かおり

Kaori KAWABATA

『幼幼新書』は南宋の紹興 20 年 (1150) 初刊の小児科全書である。全 40 巻のうち、巻 38 までが劉昉の編著で、劉昉の没後、門人の樓璣により 2 巻が付加されている。

『幼幼新書』のテキストは、宋版の巻 38 零本一巻が現存 (内閣文庫所蔵) するほか、宋版に基づく明抄本 (40 巻完存、宮内庁書陵部所蔵)、明抄本に拠る日本近世写本が 4 種 (① 内閣文庫所蔵本 [寛政 3 年写、多紀元堅手校本、以下「元堅手校本」]、② 研医会図書館所蔵本 [① による江戸末重鈔、宝玲文庫旧蔵]、③ 東京大学総合図書館所蔵本 [① による江戸末重鈔]、④ 中国中医科学院図書館所蔵本 [① による重鈔、栖芬室 = 范行准旧蔵本]) 伝存する。また、明・万歴 14 年 (1586) に陳履端による節略本、これに基づく日本文政 4 年 (1821) 重刊本も刊行されている。よって『幼幼新書』は宋版の零本を貴重とするも、完存の明抄本を最善とする。

本発表では、宋版の巻 38 と明抄本巻 38 とを比較し、両者における字句の異同を明らかにするとともに、宋版巻 38 と元堅手校本巻 38 との比較、明抄本巻 38 と元堅手校本巻 38 との比較も併せ行い、明抄本ならびに元堅手校本の現状報告を試みるものである。

【宋版巻 38 と明抄本との比較】 明抄本の巻 38 は宋版と同じく 120 葉、10 行 16 字、18 篇で構成されている。同本には校勘された箇所があり、付加字 (宋版に無い文字)、倒文 (熟語の上下の文字が倒置) の箇所に、訂正 (15 箇所) や文字の訂正書き換え (2 箇所) などの校訂が施されている。明抄本における宋版との相違 (数字は異同数) は以下の通りである。

〔頭瘡第一〕一字ずれ 5、倒文 6、異字 (文字の

相違) 45、付加字 2、脱字 2、脱文 1、付加字に印 (丸、斜線) 6 [禿瘡第二] 異字 4、脱字 1 [白禿瘡第三] 倒文 2、異字 9、脱字 2、付加字に印 2 [赤禿瘡第四] 異字 1 [漏頭瘡第五] 異字 1、付加字に印 1 [蠅螬尿瘡第六] 一字ずれ 1、倒文 1、異字 5、脱文 1 (93 字) [自懸瘡第七] 異同無し [代指第八] 一字ずれ 1、異字 3、付加字に印 1、改行の有無 1 [手足皸裂第九] 異同無し [脚瘡第十] 異字 2 [凍瘡第十一] 倒文 1、異字 4 [癰疽第十二] 倒文 2、異字 3、付加字 1、脱文 1 (4 字) [赤疵第十三・黒疵附] 脱文 1 (3 字) [白駁第十四] 文字の訂正書き換え 1、異字 1、脱文 2 (俱に 4 字)。[漆瘡第十五] 倒文 2、異字 3、付加字 1、付加字に印 2 [金瘡第十六] 一字ずれ 1、倒文 1、異字 16、付加字 1、脱字 1、付加字に印 2 [湯湯火燒第十七] 一字ずれ 2、倒文 3、異字 14、付加字 1、脱字 1、脱文 1 (2 字)、付加字に印 2 [瘡中風中水第十八] 一字ずれ 1、脱字 1、付加字に印 1、である。

巻 38 全体としては、文字の訂正書き換え 2、一字ずれ 13、倒文 19、異字 108、付加字 5、脱字 7、脱文 8、改行無し 1 である。

【宋版巻 38 と、元堅手校本に見える校勘記録との比較】 元堅手校本では、巻 38 において宋版巻 38 との異同の朱筆による訂正が見られる。訂正箇所は 111 で、内訳は字の訂正 93 (朱筆)、付加字に印 (丸、傍線) 18 である。しかし、一字ずれ 13、倒文 19、異字 50、付加字 4、脱字 4、脱文 5、無改行 1 の異同 (96 箇所) については訂正が為されていない。

【明抄本と元堅手校本との比較】 異同は 129 箇所である。これら両者の異同は宋版とも相違する。このうち、元堅手校本では、宋版との校勘に基づき、98 箇所の朱筆による訂正が見られる。